

(様式)

普及項目	資源管理
漁業種類等	採貝業
対象魚類	アサリ
対象海域	熊本有明海

荒尾・玉名地区のアサリ生息状況調査及び生産量調査

県北広域本部水産課・津方 秀一

【背景・目的】

県内アサリの主要産地である熊本県有明海沿岸の漁場（荒尾～横島）では、近年漁獲量が大幅に減少し、大きな問題となっている。そこで、本調査により管内のアサリ生息状況及び生産量を正確に把握し情報提供することで、漁業者が行うアサリ資源の管理及び増殖に係る取組みを支援する。

【普及の内容・特徴】

(1) アサリ生息状況調査

各地区の主要漁場において調査定点を設定し、現地の漁業協同組合、関係市町及び熊本県漁業協同組合連合会と協働で5月（春期）と9～10月（秋期）の年2回、アサリの生息状況を調査した。

各定点では25cm×25cmの方形枠を用いて干潟の表層底泥を2回採取し、4種の縦線篩を用いてサイズ別個体密度*を計数した。

令和元年秋期における2分貝以上の生息個数は表1のとおりである。昨年と比較し、特に荒尾地区の減耗が激しく、各地区ともに資源状況は低位で推移している。

前年度を上回ったのは12点中4点（鍋、高道、大浜I、横島東）に止まった。

* 5分貝（殻幅15mm）、4分貝（同12mm）、3分貝（同9mm）、2分貝（同6mm）

(2) 生産量調査

アサリ生産量について、毎月1回、各漁業協同組合から聞き取り、前年と比較した。

平成31年（令和元年）（暦年、12月末現在）における熊本県有明海のアサリ生産量は、表2のとおり292.2トンで、前年を下回った（H30：434.9トン）。地域別に見ると、白川河口域（6.2トン、前年0.5トン）は前年を上回ったが、荒尾長洲地域（181.6トン、前年195.2トン）は前年並み、緑川河口域（104.3トン、前年239.3トン）は前年を下回り、菊池川河口域は前年と同じく漁獲量なしであった。

【成果・活用】

本調査の結果を迅速に各漁協及び関係機関に情報提供し、資源の増殖対策の検討に供するよう指導した。

各浜では、漁業者自らが網袋や被服網を設置し、稚貝の保護や食害生物の防御に努める等、アサリ資源増殖への取組みが行われている。

(様式)

表1 荒尾・玉名管内アサリ生息状況調査結果比較（秋期調査）

(2部貝以上の生息個数/m²)

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
荒尾北部	171	245	322	79	33	140	392	627	86	1
荒尾中部	30	153	391	123	24	84	652	319	258	2
荒尾南部	4	56	23	8	20	10	166	173	83	0
牛水	121	18	62	4	1	19	141	201	100	62
長洲	584	265	209	468	83	835	1,409	333	178	50
鍋	373	31	290	195	10	910	414	95	21	32
高道	612	75	581	131	174	973	359	254	26	55
大浜Ⅰ	352	281	160	216	13	2,020	655	66	52	62
大浜Ⅱ	67	128	22	74	26	1,246	367	44	88	6
大浜Ⅲ	146	128	21	5	0	117	96	169	-	-
横島西	44	-	24	5	25	591	225	140	12	3
横島東	158	832	170	192	5	33	126	120	149	392

表2 県北広域本部水産課管内の地域別アサリ生産量

地域名	漁協名	H31(R1) 漁獲量(t)	H30 漁獲量(t)	前年比 (H31/H30;%)
荒尾長洲地域	荒尾	100.8	140.7	71.7%
	熊本北部(牛水)	0.0	16.3	0.0%
	熊本北部(長洲)	80.8	38.2	211.6%
菊池川河口域	岱明(鍋)	0.0	0.0	-
	岱明(高道)	0.0	0.0	-
	滑石	0.0	0.0	-
	大浜	0.0	0.0	-
	横島	0.0	0.0	-
白川河口域	河内	0.0	0.0	-
	松尾	6.2	0.0	-
	小島	0.0	0.5	0.0%
	沖新	0.0	0.0	-
緑川河口域	畠口	0.0	0.0	-
	海路口	12.0	29.1	41.2%
	川口	35.7	81.8	43.6%
	住吉	30.9	60.4	51.2%
	網田	25.8	68.1	37.8%
荒尾長洲地域		181.6	195.2	93.1%
菊池川河口域		0.0	0.0	-
白川河口域		6.2	0.5	1,388.8%
緑川河口域		104.3	239.3	43.6%
熊本有明 合計		292.2	434.9	67.2%